

INASHO ROTARY WEEKLY NEWS

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：池上幸平 副会長：唐澤千明 幹事：熊谷 健 公共イメージ向上委員長：田中真人

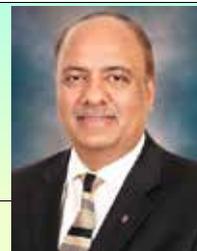


2021-2022 国際ロータリーのテーマ

奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

2021-2022 RI会長
シェカール・メータ
<インド (西ベンガル州) >

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



第1594回 松田泰明ガバナー補佐事前訪問例会 令和3年9月21日(火)



■ 点 鐘 12:30

■ ソング 我等の生業 鈴木一比古ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

- ・ RI第2600地区上伊那グループガバナー補佐 松田泰明 様
- ・ 伊那西高等学校IAC顧問：池内哲也 様
- ・ ” 会長：佐藤愛菜 様
- ・ ” 幹事：高橋希 様
- ・ ” 理事：久保田桜 様

■ 会長談話 池上幸平会長



第9回会長談話をはじめます。

ガバナー補佐と私の繋がりを話してからと思います。松田泰明様は辰野町で歯科医院を開業されておりまして、私が35年程前先生のところに営業にお伺いさせて頂きました。現在も順調にお手伝いをさせて頂いております。誠にありがとうございます。先生には人を見る目が当時からあったのだと思います。35年近く経

って今日ロータリークラブの繋がりの中で又お世話になります事、まことに有り難いと思います。本日は各委員会事業計画の進捗状況のチェックに見えられましたけれども私たちはいつもの通りの例会でかまいませんので、ありのままを見ていてもらいたいと思います。桑澤ガバナーには適当に報告をして頂けたらと思います。

皆さんこれは何だか分かりますでしょうか。バッグ、クロジャーといいます。食パンなどの袋を止めるプラスチック製の留め具です。アメリカ合衆国の「クイック、ロック」社の創業者であるフロイド、パクストンが発明した製品で、アメリカで特許を取得しています。日本では立体商標を取っており、川口市に唯一工場を置くようです。クイック、ロック、ジャパン（株）一社のみが製造を行っているようです。包装機械事業を営んでいたパクストンが1952年に顧客のリング生産者からリングを詰めた袋の口を簡単に閉じる方法という依頼からバッグ、クロジャー原型が発案されたようです。このプラスチックの破片を何かほかに使うことが出来ないか？アイデアはございませんかという問い合わせがありましたなかなか難しく浮かんできません。便利なものなのにさあとなると思い当たらないです。アイデアを募集しているようです。浮かんで来たら応募してはと思います。頭の固い皆様では無理かも…

先日上島の踏切で遮断機が下りたのでチョット、イラッとしながら待っていましたら踏切の反対側の寂照庵の掲示板に、苦は欲より生ずチョット欲を少なくすると楽になると書いてありました。

■ ニコニコボックス

- ◆池上幸平 松田泰明ガバナー補佐、ようこそ伊那中央ロータリークラブに！今日は楽しんで帰っていたきたいと思います。
池内哲也先生、佐藤愛菜会長・高橋希幹事・久保田桜理事さん、ようこそ。今日は活動紹介をよろしくお願い致します。
- ◆熊谷健 松田泰明ガバナー補佐、ようこそおいで下さいました。また、伊那西高校インターアクトクラブ池内先生、佐藤さん・高橋さん・久保田さん、ようこそ。今日は一日よろしくお願い致します。
- ◆小椋文成 松田ガバナー補佐、本日はよろしくお願い致します。
伊那西インターアクトクラブの皆様、活動発表よろしくお願い致します。
- ◆井上修 本日、伊那西高校インターアクトクラブの活動報告があります。宜しく願い申し上げます。
- ◆下井達典 松田ガバナー補佐、伊那西インターアクトクラブの皆さんの御来訪を歓迎します。
- ◆杉本徳治
小川秋實
市川修次 ゴルフ部コンペで優勝・準優勝・3位となりました。

■ 幹事報告 熊谷健幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・9月12日(日) ローター奉仕デー「クリーンアップ天竜川大作戦」の現地視察の報告 熊谷健幹事



9月12日（日曜日）午後4時から、伊那、辰野、箕輪、伊那中央の4クラブで、天竜川河川の現地視察を行いました。

11月6日（土曜日）当日は、開会セレモニーの後8グループに分けて新水神橋、大橋、三峰川合流地点の右岸と左岸に分散して移動。新水神橋から下流に向かって右岸左岸に2グループ、大橋から上流に向かって右岸左岸に2グループ、下流に

向かって右岸左岸に2グループ、三峰川合流地点から上流に向かって右岸左岸に2グループでゴミ拾いを行い、上に向かうグループと下に向かうグループが出会ったところで終了とする。拾ったゴミは堤防道路ガードレールに置き、それを軽トラックが回収して三峰川合流地点で分別し収集する。作業時間は、移動時間、分別作業の時間も含めて概ね1時間30分程度とし、作業終了後閉会セレモニーを行い解散する、という計画を立てました。参加人数は、80名程度を予定しており、わがクラブからも最低20名は参加する必要がありますので、ご協力をお願い致します。

なお、損害保険加入の関係上、出席者の人数と氏名を数日前までに登録しなければなりません。そこで、本現時点での参加可能メンバーを把握しておきたいと思っておりますので、例会の後、理事会が行われますがそこで協議していただいたうえで、本事業の出席確認を取らせていただきますので、是非ご参加下さいませようお願い致します。

・ゴルフ部よりお知らせ 加藤篤ゴルフ部会計



ゴルフ部第3回ゴルフコンペを10月15日（金）に塩嶺カントリークラブで行いますので、ゴルフ部以外の会員の方も含め奮ってご参加ください。ご案内の文書は今週中には配信できるようにいたします。

また、前回も連絡しました恒例の伊那RCと伊那中央RCの合同ゴルフコンペを、11月3日（水・祝日）に行います。こちらも今から予定して頂き、奮ってご参加下さいませようお願いいたします。

■ 出席報告 会員数46名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席者26名（内Zoom0名）
事前メイク2名 出席率70.00% 前回出席率 修正なし

■ ガバナー補佐ご挨拶

・RI第2600地区上伊那グループガバナー補佐 松田泰明 様



伊那中央ロータリークラブの皆様こんにちは。次第に秋めいて来ております毎日でございますが、コロナも未だに終息の様相を呈しておりません。色々な場面に影響を及ぼしております。会員の皆様におかれましてもご苦勞がおありの事とご推察申し上げます。それでは、よそ行きのご挨拶をさせていただきます。日頃上伊那グループの運営にはご協力頂き感謝申し上げます。7月1日よりガバナー補佐としての役目がはじまりました。新年度がスタートして2ヶ月余りが経ちました。池上会長様、熊谷幹事様を中心にコロナ禍の中とは言え希望に燃えたロータリー活動に邁進しておられることと存じます。

伊那中央クラブさんは、会員数46名で、平均年齢64歳で頑張っておられます。ベテラン勢と若手が日頃からチームワークが良いと聞いております。また、地区の委員に公共イメージ向上委員会委員に伊澤会員が、インターアクト小委員会委員に井上会員が、財団資金管理会計小委員会委員に太田会員が、資金推進小委員会委員に中川会員が出ておられます。ご活躍を祈念いたします。伊那中央クラブさんは、計画書を拝見いたしますと、様々な奉仕活動や事業に積極的に取り組んでおられ、地区のクラブの中でも群を抜いて、先端を進んでおられるような気が致します。是非他クラブにとっても参考になるようなクラブにさらに進んで行って欲しいと思います。しかしながら、こんな時代ですから思うようにいかないかもしれませんが頑張りたいと思います。いずれにしても、コロナ時代の中で色々制限されることも多いと思いますが、私もガバナーと上伊那の皆様の間に入って頑張りたいと思います。

さて、ここでガバナー補佐の仕事させていただきます。会員の皆様は既にクラブ計画書、会報などによりご存知のことと思いますが、また繰り返しの話になりますがしばらくお付き合い下さい。

2021～2022年度RI会長には、シェカール・メータ氏が就任いたしました。RIのテーマは「奉仕しよう皆の人生を豊かにするために」です。メータ氏はロータリーが私の心に火をつけました。自分の身の回りを越えたところに目を向け、人類全体を考えるようになり、奉仕の決意が固まったそうです。

奉仕とは、自分がこの地上に占める空間に対して支払う家賃であるという信条を持つようになったと
のことです。

RI会長の方針はまず、全世界の会員を130万人に増やそう。そのためには、一人の会員が一人を入
会させてくださいというものです。過去20年間約120万人のまま横ばいだそうです。Each one,bring
oneを目指そうではありませんか。ハードルは高いですが、頑張りましょう。伊那中央クラブさんは、
本年度の純増目標は3人とのこと、よろしく願いいたします。特に、女性会員また若年会員について
も重ねてよろしく願いいたします。

次に、ロータリー奉仕デーを開催して下さいとのこと。実践的かつ行動志向のロータリー奉仕
デーのイベントを開催して下さい。このイベントは職業やロータリーとの関係にかかわらず、地域
の家族や協力団体とともに有意義な奉仕に取り組む機会となります。地域社会の人々へのアピールを
行い、意義ある行動を広く知ってもらいましょう。ただ、このイベントには次のような条件がありま
す。1、二つ以上のロータリークラブ、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブによって計画さ
れたものであること。2、ロータリー重点分野に一致している。3、イベントへの関心を高めるため、
少なくとも一つのメディアで周知を行う。4、参加者の少なくとも25%は、現ロータリー会員ではな
い。というものです。上伊那グループでは既にご存知の事と思いますが、伊那クラブさん、伊那中央
クラブさんそして駒ヶ根クラブさんのご尽力により、11月6日に実施される予定になっております。

3番目には、少し難しくなりますが、女子のエンパワーメント（能力向上）に取り組んでもらいた
いとのこと。8月24日付の貴クラブの会報を拝見し、宮下会員がロータリーの中核的価値観に言及
されておられます。ロータリーの中核的価値観は、親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップが
あります。その中の一つが多様性です。ロータリーには、多様性、公平さ、開放性に対する信念を表
した公式声明もあります。女子は不利な立場に置かれるが多く、我々は、女子のエンパワーメントに
取り組むことが重要です。どうか、リーダーの皆さんは女子が抱える問題に取組み、それらを和らげ
るようにして下さいとのこと。

さて、2600地区のガバナーは、茅野クラブ出身の桑澤一郎さんです。地区の目標は「繋がりを保ち
交流と奉仕を充実させよう」です。コロナ禍により私たちの生活は一変しました。しかし、多くのこ
とを学んできています。行動制限にも対応可能であることも学びました。まず、奉仕活動の継続や会
員同士の繋がりの基本にある例会の継続を実現するためにオンラインの環境の整備をしてくださいと
のことです。今月の月信で、ガバナーが述べられておりますが、ハイブリット型ではどうしても対面
が出てしまいます。リスクが避けられません。従って、色々ご意見がおありになると思いますが、
100%のオンラインが理想的なものになります。このことに関しましては、当クラブでは環境は既に
整っているとのことですので、「全員のオンライン環境」を実現するためにクラブ内の委員会を中心
に会員同士が助け合うような風土を作って下さいとのこと。

次に、女性会員の増強と役割について、日本では、先進国の中でも、女性の社会参画や地位の低さ
が問題となっているところから、女性の機会や地位向上の目指す取組みを行って欲しいとのこと。
そのためにロータリーに女性会員を増やし、彼女たちが自らの問題として捉えていることの解決策を
見出し、実践し、クラブの変革の一助となり、更には社会へのアピールを積極的に行ってもらいた
いとのこと。

3番目には、積極的な広報活動とビジュアルアイデンティティの強化を行って欲しいとのこと。
社会のロータリーへの理解と入会見込み者への正しい理解や動機づけを促進するための広報活動を積
極的に推進して下さいとのこと。ビジュアルアイデンティティとは、見た目の特徴付けのこと
です。多くの仲間を迎え入れたり、繋がりを保ちながら、インパクトのある奉仕活動を実行するた
めには、活動を通じてロータリーに対し理解や共感の意識を持ってもらうことが必要です。奉仕活動
をするとき、揃いのジャンパーを着たり幟をたてることは、私たちの活動を世間に知らしめ、活動に共
感する人を仲間にする機会を増やします。

これらの重要課題への取り組みをお願いしたいとのこと。

最後に、本年度はオープン例会、ロータリー奉仕デーの実施と例年と異なる事業が多くなりました
が、よろしく願いいたします。

本日は、この後クラブ協議会がありますのでこちらも宜しく願い致します。ご清聴ありがとうご
ざいました。

・井上修委員長あいさつ



青少年奉仕委員長を仰せつかっております井上でございます。本日は伊那西高等学校インターアクトの活動報告をさせていただきます。4月に新任の池内先生を迎え、従前の活動に加えて、新たな挑戦を初めております。又、この7月24日には第28回インターアクト地区大会を、初めてリモートで行うという事に挑戦、大成功をおさめました。

・伊那西高校インターアクトクラブ活動紹介

会長：佐藤愛菜さん 幹事：高橋希さん 理事：久保田桜さん



伊那西高校インターアクトクラブは現在15名在籍しており、主に毎週火曜日、金曜日と週末に活動しています。まずは、これまでの活動報告をさせていただきます。

これは、赤い羽根共同募金の募金箱づくりをした時の写真です。新型コロナウイルスの影響で街頭での募金の呼びかけに参加することはできませんでしたが、伊那市内の店舗に作った募金箱を置いていただくことができました。

これは、伊那中央ロータリークラブ主催の、ますみヶ丘平地林整備事業に参加した時の様子です。私たちが植林をして、未来の森が豊かになるのは嬉しいですし、高校を卒業してこの町を出ることになっても、将来いつか戻ってきたときにあの小さな苗木が大きく成長した姿を見るのがとても楽しみです。

平日は主に手話の勉強を行っています。その一環として、聾者の方にご来校いただき、普段の生活の様子を教えていただきました。耳が聞こえない事で何が大変なのか、また、耳が聞こえない中でどのように子育てをしているのかなどを具体的にお聞きしました。

手話の勉強の一環として手話ソングにも取り組んでいます。歌詞の一つひとつを手話に置き換えて、みんなでできるようになるまで何度も繰り返し練習しています。先日本校で行われた文化祭でも生徒や保護者に披露し、多くの人に興味をもってもらうことができました。

コロナ禍でもできる活動という事で、今年新たに始めた活動もあります。伊那市の社会福祉協議会から一人で暮らすお年寄りの方に様々な通知が送られます。その通知を入れる封筒を作りました。新型コロナウイルスで人と人との関りが減少しているなか、手作りの封筒に暖かみを感じたと喜んでもらうことができました。

このような活動を行ってきましたが、やはりコロナ禍ということもあり、校外の人と直接関わったり、交流したりすることができず、物足りなさやもどかしさを感じています。また、先程の封筒づくりの活動では、私たちだけでなく地域のお年寄りや多くの人たちが、人と人との関りや交流が不足していることが分かりました。そんな現状を見つめ、コロナ禍ではありますが、どうにかして交流活動ができないかと考えました。

そこで見つけた答えが、朗読です。いただいたリモート機材を使って、お年寄りや耳の不自由な方などにオンラインで朗読を披露できれば、直接会う事はできなくても人と人との関りや温もりを感じてもらえるのではないかと考えました。しかし、いざやってみると、朗読は思ったよりも



難しく、セリフが棒読みになってしまったり、聞き取りにくい声になったりしてしまいます。せっかく聞いてもらうのであれば、聞いてもらう人に喜んでもらえるような上手な朗読をしたい。そう思い、朗読の先生をお招きして勉強会を始めました。勉強会では発声練習から始まり、自分の声をベースに声の5つの要素（高さ、速さ、大きさ、間、音色）の組み合わせを変えることで、キャラクターや状況を表現する技法などを学んでいます。また、自分がしたスピーチを紙に文字で起こし、それを読む練習を通して、書いてある文章を自然な話ことばで読む練習もしています。



さらに、目の不自由な人にも朗読を披露したいという目標を叶えるため、実際に目隠しをして目の不自由な人の感じ方や気持ちを考える勉強もしました。これは中身が何かわからないペットボトルを自分で開け、飲むという体験です。一番感じたのは怖さです。近くに人の気配がすると怖い、なんだかわからないものを飲むのが怖い、急に声を掛けられると怖いなど、何もかもが怖かったです。朗読や交流をする際も、常に相手の事を考えながら行動する必要があると感じました。

朗読を始めてみて見つかったことは、初めて取り組んでみた朗読は、意外と難しく、奥深く、面白いということと、相手の立場や状況、気持ちになって考え、行動することの大切さです。

私たちは、社会や地域の現状を見つめ、今自分たちにできることを見つけ、活動を通して新たな価値や課題が見つかりました。コロナ禍はまだ続きますが、いまだからこそできることをみんなで知恵を出し合い、協力して実践していき、一歩先の明るい未来に向かって今後も頑張っていきたいと思えます。

ご清聴いただきありがとうございました。

■ 点 鐘

13:30

次回例会

10月5日(火) 点鐘/12:30 場所/海老屋料理店

・桑澤一郎ガバナー公式訪問例会